

エコアクション21

環境経営レポート

2022年度

運用期間 2022年11月1日～2023年10月31日



2023年12月15日 発行

2024年3月15日 改訂

株式会社 高野建設

【 目 次 】

1. 事業概要	…3~5
1) 事業者名及び代表者名	
2) 所在地	
3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先	
4) 事業創立年月日	
5) 資本金	
6) 事業活動の内容	
7) 適用事業範囲	
8) 事業規模	
9) 推進組織図	
10) 許可の内容及び施設の状況	
11) マテリアルフロー	
12) 受託した産業廃棄物収集運搬の実績	
13) 受託した一般廃棄物収集運搬の実績	
2. 環境経営方針	…6
3. 環境経営目標	…7
4. 環境経営目標の実績	…8
5. 環境経営計画の取組結果とその評価	…9
6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	…10
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟の有無	…11
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	…12

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 高野建設
代表取締役 高野 いつみ

2) 所在地

〒883-0052
宮崎県日向市鶴町3丁目97番地1

3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先

EA-21責任者 : 高野 いつみ
EA-21事務局 : 高野 礼子

連絡先

連絡担当者 : 高野 いつみ (EA-21責任者)
TEL : (0982) 52-4607
FAX : (0982) 52-5948
E-mail : taka804@wonder.ocn.ne.jp

4) 事業創立年月日

1983年7月30日 [創立より40年]

5) 資本金 2,000万円

6) 事業活動の内容

建設業 (土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、舗装工事業、鋼構造物工事業、
しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業、解体工事業)
・産業廃棄物収集運搬業

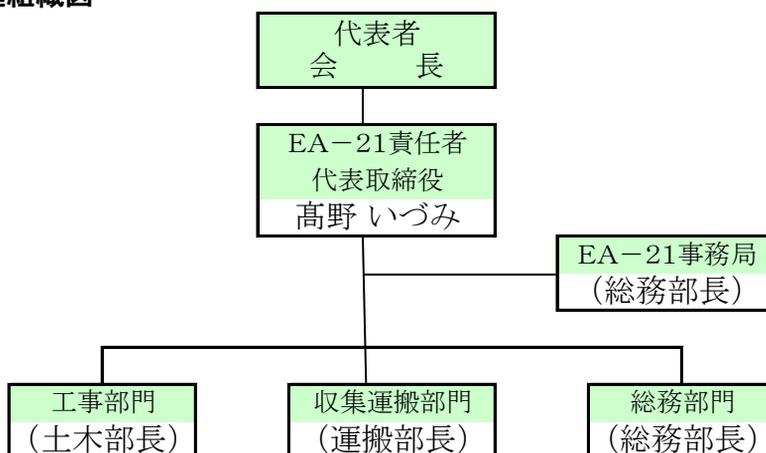
7) 適用範囲 (全組織・全活動)

・組織(適用事業場の所在地) ・活動・・・(6)事業活動の内容全て
本社 : 宮崎県日向市鶴町3丁目97番地1
土場 : 宮崎県日向市大字富高字太田2359番地1
産業廃棄物置場 宮崎県日向市大字平岩字引地9618番地15 外2筆

8) 事業規模

	単位	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
工事件数	件	5	5	6	6	6	5
売上高	百万円	131	150	241	241	226	260
従業員数	人	10	10	10	10	10	10
床面積	m ²	112	112	112	112	112	112
敷地面積	m ²	162	162	162	162	162	162
積替え・保管面積	m ²	64	64	64	64	64	64
保管上限	m ³	98.04	98.04	98.04	98.04	98.04	98.04
産廃部処理高	t	10.44	10.44	10.11	6.47	5.21	6.97

9) 推進組織図



10) 許可の内容及び施設の状況

①産業廃棄物収集運搬業許可証

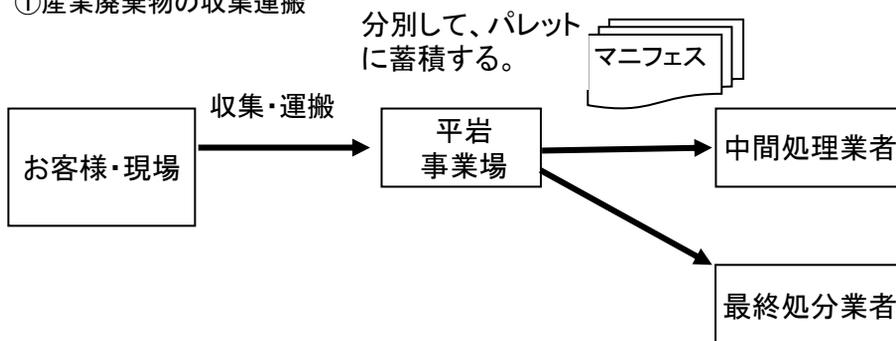
許可番号	宮崎県 《第04517071562号》
積替え・保管の有無	あり
産業廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃プラスチック類〔石綿含有産業廃棄物を含む〕、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）、以上10種類でこれらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。
許可年月日	令和2年8月8日
許可の有効年月日	令和7年8月7日

③運搬車両等の状況

登録番号	トン数	車両名
宮崎11た2769	4t	ダンプ
宮崎11そ4267	2.75t	キャブオーバー
宮崎41て1963	0.35t	キャブオーバー

11) マテリアルフロー

①産業廃棄物の収集運搬



1 2) 受託した産業廃棄物収集運搬の実績及び運搬料金

①収集運搬実績

2022年(2022年11月 ~ 2023年10月)

処理方法等	廃棄物等の処理	処分方法等	処理量t
収集運搬	(木くず)		4.60
	(石膏ボード)		
	(廃プラ類)		1.56
	(コンクリート)		0.81
収集運搬量合計			6.97
中間処理	(木くず)	(破碎・焼却)	
	(がれき類)	(破碎)	
うち再資源化等	(木くず)	(焼却(熱回収有り))	
	(木くず)	(破碎・選別後ボード原料化)	
	(がれき類)	(破碎・選別後路盤材化)	
	再資源化等量小計		
中間処理合計			
最終処分	(がれき類)	(安定型最終処分場)	
最終処分合計			0.00
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	(がれき類)	(管理型最終処分場(委託))
	再資源化等	(木くず)	(ボード原料として再生利用(売却))
		(がれき類)	(路盤材として再生利用(売却))
再資源化等量小計			0.00
中間処理後処分量合計			0.00

②運搬料金

廃棄物の性状・容量及び運搬距離等を考慮し、お見積りいたします。(見積り無料)

2. 環境経営方針

環境経営方針

株式会社 高野建設は、建設業、産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬業等の全ての事業活動が与える環境負荷を把握し、循環型社会の推進、排出企業の意識の変革を図り、地球環境保全活動並びに地域社会の発展に貢献します。

1. 当社は、事業活動を通じて環境経営目標、環境経営計画を定め、環境経営システムの継続的な改善に努めます。
2. 環境に関連する法規則を遵守し、行政機関・団体・地域等の要請に協力します。
3. 当社の環境保全活動として、次の事項に対して優先的に取組みます。
 - ① 電気使用量・化石燃料使用量の節減による二酸化炭素排出量の削減
 - ② 建設現場や事業所から排出される一般廃棄物及び産業廃棄物の削減
 - ③ 節水活動による水使用量の削減
 - ④ 建設現場の環境配慮型工事施工の推進
 - ⑤ 廃棄物の分別を徹底し再資源化(3R)を推進
4. 地域社会との環境コミュニケーションを図り、地域環境保全に努めます。
5. 人材不足や社員の高齢化が進む中で、若手社員の育成に努める。
6. 環境経営方針を全ての従業員に周知徹底し、意識向上に努めます。

2019年12月 1日改定
2016年 1月 5日改定
2009年10月16日制定

株式会社 高野建設
代表取締役 高野 いづみ

3. 環境経営目標

当社の環境経営目標は、環境負荷の調査結果により以下のような第五次中期の目標を設定いたしました。
 なお、目標設定の基準は2015年度～2017年度の実績の平均値データを継続して使用しております。

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年度別環境目標				
		基準値 (2015年度～ 2017年度 3ヶ年 の平均値)	2021年度 (2021年11月～ 2022年10月)	2022年度 (2022年11月～ 2023年10月)	2023年度 (2023年11月～ 2024年10月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	5,187.4	5,073.3	5,062.9	5,052.5	
	現場	165,070.3	161,438.8	161,108.6	160,778.5	
	産廃	2,595.5	2,538.4	2,533.2	2,528.0	
	全体	172,853.2	169,050.5	168,704.7	168,359.0	
	①電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	削減率⇒		2.2%削減	2.4%削減	2.6%削減
		事務所	2,575.0	2,518.4	2,513.2	2,508.1
		現場	5,097.0	4,984.9	4,974.7	4,964.5
		全体	7,672.0	7,503.3	7,487.9	7,472.6
	②ガソリン使用量の削減 (L)	削減率⇒		2.2%削減	2.4%削減	2.6%削減
		事務所	720.2	704.4	702.9	701.5
		現場	8,581.5	8,392.7	8,375.5	8,358.4
		全体	9,301.7	9,097.1	9,078.4	9,059.9
	③軽油使用量の削減 (L)	削減率⇒		2.2%削減	2.4%削減	2.6%削減
		事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
		現場	55,531.1	54,309.4	54,198.4	54,087.3
		産廃	1,006.0	983.9	981.9	979.8
④灯油使用量の削減(L)	削減率⇒		2.2%削減	2.4%削減	2.6%削減	
	事務所	1,028.6	1,006.0	1,003.9	1,001.9	
	現場	0.0	0.0	0.0	0.0	
	全体	1,028.6	1,006.0	1,003.9	1,001.9	
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	235.7	2.2%削減 (230.5Kg)	2.4%削減 (230.0Kg)	2.6%削減 (229.6Kg)
	②. 建設副産物の再資源化率の向上	現場	143.5t	環境経営計画の遵守と再資源化率の向上を図る。 (目標95%以上)		
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m ³)	削減率⇒		2.2%削減	2.4%削減	2.6%削減	
	事務所	37.0	36.2	36.1	36.0	
	現場	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体	37.0	36.2	36.1	36.0		
4. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全体	10回	10回/年	10回/年	10回/年	
5. 環境型製品・サービスの提供	全社	2015年度実績値 (研究会3回)	環境経営計画の遵守			
6. 若手社員の育成推進	全社	環境経営計画を遵守	環境経営計画を遵守			

*2021.12.1 改訂 ・基準年と基準値を第四次中期を継続し、削減率をアップして第五次中期の目標値を設定した。

・電気のCO₂排出係数は、2021年1月7日公表の0.371を採用した。

*2022.6.8 改訂 ・環境経営方針「6. 若手社員の育成に努める」を目標管理に反映した。

・化学物質の使用、購入、保管、移動ともありません。

※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した。(排出量(kg-CO₂) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh		0.371	(kg-CO ₂ /kWh) 2021.1.7環境省公表
ガソリン	L		2.32	(kg-CO ₂ /L) 2017年版の環境への負荷の自己
灯油	L		2.49	(kg-CO ₂ /L) チェックの係数に
軽油	L		2.58	(kg-CO ₂ /L) 合わせた。

4. 環境経営目標の実績

2022年度運用期間(11～10月)の1年間の環境経営目標と実績[達成状況]は以下の通りです。
目標値は2015年度～2017年度 3ヶ年の平均値の削減率とする。

取組項目	取組目標	2022年度 ★環境経営目標値★ (11～10月)	2022年度 ★実績値★ (11～10月)	単位	達成率	判定	
1. 二酸化炭素排出量の削減	2.4%削減 (kg-二酸化炭素)	168,704.7	137,916.2	kg-CO ₂	122.3%	○	
	*現場の灯油を含む総CO2排出量		137,916.2	kg-CO ₂			
	①電気使用量の削減	電力使用量 2.4%削減	7,487.9	27,580.0	kWh	27.1%	×
	②燃料使用量の削減	【ガソリン】 2.4%削減	9,078.4	12,861.4	L	70.6%	×
		【軽油】 2.4%削減	55,180.2	37,060.9	L	148.9%	○
	【灯油】 2.4%削減	1,003.9	895.0	L	112.2%	○	
2. 廃棄物の削減	一般廃棄物 2.4%削減	230.0	235.0	kg	97.9%	×	
	建設副産物の 再資源化率の向上	95.0%以上	98.2% (総排出量 255.1t)	%	103.4%	○	
3. 水資源使用量の削減	2.4%削減	36.1	29.0	m ³	124.5%	○	
4. 環境保全の取組推進 (ボランティアの実施)	10回以上/年	10	10	回	100%	○	
5. 環境型製品・サービスの提供	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	遵守	—	—	○	
6. 若手社員の育成	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	遵守	—	—	○	

※ 購入電力のCO2排出係数は、2021年1月7日公表の九州電力の調整後0.371を使用しました。

5. 環境経営計画と取組結果とその評価

2022年11月1日から～2023年10月31日までの環境経営計画と取組結果は以下の状況です。

[実施スケジュールの年間は、11月～翌年10月とする。]

取組項目と活動内容		推進責任者	実施スケジュール	取組結果	評価
1 ・ 二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】 ①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理(設定温度遵守) ③パソコンのオート電源オフや設定	総務部門	①年間 ②6～9月 11～3月 ③年間	①こまめな電気消灯の徹底に努め、社員全員への呼びかけ。②空調温度管理の設定③帰宅時のパソコンのオート電源オフの確認 以上を徹底して取り組み目標を達成できた。継続して取り組み意識を高めた。	○ ○ ○
	【ガソリン使用量の削減】 ①エコドライブの徹底 ・アイドリングストップ、急加速等の禁止 ②車輛管理の徹底	総務部門	①②年間	①②を徹底して取り組んだ。遠方の現場で、相乗り運転の実施を行い、継続して行い、現場での朝礼等で社員全員に呼びかけ意識を高めた。	○ ○
	【軽油使用量の削減】 ①エコドライブの徹底 ②車輛管理の徹底(定期点検) ③重機の定期点検整備の実施 ④効率の良い配車[相乗りの推進]	工事部門 収集運搬部	①②③④年間	①②を徹底して取り組んだ。重機における空ぶかし等非効率な作業が減少した③月次、年次に定期点検を使用するオペレーター(車両系建設機械資格保持者)が行った。④遠方の現場の時は、相乗り運転の実施を行い、朝礼等での呼びかけを継続して行い社員全員で取り組んだ。	○ ○ ○ ○
	【灯油使用量の削減】 ①適切な焼却温度の設定 ②こまめな燃料調整	工事部門 総務部門	①②年間	①②に徹底して取り組み、現場での安全訓練等で社員全員に呼びかけ、事務所での取組を徹底した。継続して目標に努めたい。	○ ○
2 ・ 廃棄物の削減	【一般廃棄物の削減】 ①廃棄物の分別計量と記録 ②ゴミの入口管理の徹底 ③コピー用紙などの削減 ④資材梱包材の業者持ち帰り依頼	収集運搬部	①②③④年間	①分別計量の記録、月毎にまとめ比較、調査した②徹底③紙類はリサイクルに努め、④の状況時は、業者依頼を行い節減に心がけた。③は社員全員で徹底して、取り組んだ。	○ ○ ○ ○
	【建設副産物の再資源化率の向上】 ①建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰り分別して保管し再利用を推進する ②自社運搬の際の業務の徹底 ③排出先(中間処理場・最終処分場)の選定と確認	工事部門	①②③年間	産業廃棄物搬入の際は、①現場で余資材が発生したら持ち帰って再利用する ②自社運搬の際は業務を徹底 ③排出先は産廃の種類毎選定し確認した。社員全員が産廃の流れを把握し、一人一人が意識して取り組めた。	○ ○ ○
	【受託廃棄物のリサイクル率向上】 ①顧客への分別徹底 ②顧客への分別情報提供 ③社員による顧客廃棄物の分別チェックと指導	収集運搬部	①②③年間	①②③顧客へ口頭と紙面による、分別方法の指導を定期的に行い、指摘事項があれば改善お互いが努め、顧客にもリサイクル率向上の意識を高める事に取り組んだ。	○ ○ ○
3 水 使用 量	【水資源使用量の削減】 ①定期的な漏水点検 ②洗車時のこまめな蛇口開閉	全部門	①②年間	①漏水点検を行った。何も異常はなかった。②使用車の洗車において、大量の水を使用するので、こまめな蛇口開閉に取り組み徹底した。	○ ○
4. 環境保全の取組推進 [ボランティア活動の実施]		EA21事務局	①年間(隔月) ②③ 随時	今年度におけるボランティア活動は①1回②2回③10回実施した。地域ボランティア活動に多く取り組むことができ、地域住民とつながりができた。	○ ○ ○
5. 環境型製品・サービスの提供		工事部門	①②年間	水辺の工法研究会へは全員参加を心掛け3回参加した。環境配慮の工法、資材の提案は工事で環境配慮型の資材を使用する機会があった。	○ ○
6. 若手社員の育成		工事部門	①②年間	1, 1級2級土木施工管理技士試験講習 2, ICT講習(3次元の測量機器の使い方)	○ ○
①技術向上に関する研究会・講習への参加 ②各種資格の取得によるスキルの上					○ ○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2023年度)の環境経営計画と環境経営目標は下記の通り取組みます。

[実施スケジュールの年間は、11月～翌年10月とする。]

環境経営計画			次年度の 環境経営目標
取組項目と活動内容	推進 責任者	実施スケジュール	
1. 二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】 ①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理(設定温度遵守) ③パソコンのオート電源オフや設定	総務部門	①年間 ②6～9月 11～3月 ③年間
	【ガソリン使用量の削減】 ①エコドライブの徹底 ・アイドリングストップ、急加速等の禁止 ②車輛管理の徹底	総務部門	①年間 ②年間
	【軽油使用量の削減】 ①エコドライブの徹底 ②車輛管理の徹底(定期点検) ③重機の定期点検整備の実施 ④効率の良い配車[相乗りの推進]	工事部門 収集運搬部	①②③④ 年間
	【灯油使用量の削減】 ①適切な焼却温度の設定 ②こまめな燃料調整	工事部門 総務部門	①②年間
2. 廃棄物の削減	【一般廃棄物の削減】 ①廃棄物の分別計量と記録 ②ゴミの入口管理の徹底 ③コピー用紙などの削減 ④資材包装の業者持ち帰り依頼	収集運搬部	①②③④ 年間
	【建設副産物の再資源化率の向上】 ①建設残余資材が発生したら、資材倉庫に持ち帰り分別して保管し再利用を推進する。 ②自社運搬する際の業務の徹底 ③排出先[中間処理場・最終処分場]の選定と確認	工事部門	①②③ 年間
	【受託廃棄物のリサイクル率向上】 ①顧客への分別徹底 ②顧客への分別情報提供 ③社員による顧客廃棄物の分別チェックと指導	収集運搬部	①②③ 年間
3 水量使用	【水資源使用量の削減】 ①節水シールの表示 ②定期的な漏水点検 ③洗車時のこまめな蛇口開閉	全部門	①②③ 年間
4. 環境保全の取組推進 [ボランティア活動の実施]	①事務所周辺の清掃活動 ②現場周辺の溝清掃 ③地域ボランティア活動参加	EA21事務局	①年間 (隔月) ②③随時
5. 環境型製品・サービスの提供	①環境に関する研究会・講習への参加による提案力アップ ②環境配慮型工法の提案	工事部門	①② 年間
6. 若手社員の育成	①技術向上に関する研究会・講習への参加 ②各種資格の取得によるスキルの向上	工事部門	①②年間

当レポートのフリップページに掲載しています。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・関連法規制の遵守状況確認を毎年4回実施しており、違反はありませんでした。
- ・地域住民からのクレーム及び訴訟等はありませんでした。
- ・監督官庁等からの指摘もありませんでした。
- ・尚、現場での遵守状況は、月1回の安全パトロール中や安全会議時等で、常に確認しております。
- ・当社の事業に係る主な環境関連法規制は、Web(環境省ホームページの環境基準・法例等)の改定履歴や建設業協会からのお知らせ等から年次の運用開始時に見直しと取り纏めを行っております。(当社に関連する主な法規等と遵守状況は下表の通りです。)

主な関連法規	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の削減 ・廃棄物の適正処置の確保 ・産業廃棄物保管基準遵守(掲示板の設置) ・産業廃棄物処理委託基準の遵守 ・産業廃棄物管理票の管理義務(・委託契約の締結、マニフェスト交付、回収照合、A表5年間保管等) ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書(3号様式)の6月30日までに県知事へ報告 	遵守確認済
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 ・該当する工事の場合は届出と計測実施 	該当なし
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 ・該当する工事の場合は届出と計測実施 	該当なし
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・分別解体実施義務の遵守 ・再資源化等の実施義務の遵守 ・発注者への報告義務の遵守 	遵守確認済
再生資源利用省令	<ul style="list-style-type: none"> ・設計書に沿った施行計画書の作成 ・クレダスにより作成・保管 	遵守確認済
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ・該当する工事の場合は、あらかじめ下水道管理者へ届け出る 	遵守確認済
オフロード法	<ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス適合機器の使用 ・適合シールの添付と確認 	遵守確認済
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・排出基準の遵守 ・該当する工事の場合は排水の汚染状況確認 	—
日向市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の適性処理 	遵守確認済
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 定格出力7.5kW未満の業務用エアコンの簡易点検実施(建設機械搭載のエアコン含む) 	遵守確認済

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示(○当年度の評価 ●次年度への指示)
①環境経営目標の達成状況	<p>○環境経営目標達成状況管理表で確認したが、年間のCO2排出量の削減目標値を無事達成する事が出来た。しかし、かろうじて目標値を達成出来た訳で、全体的に見直しが必要と感じた。特に目立ったのは、現場の電気量と現場のガソリン消費量である。要因として、電気は工事の工程において、動力を使う工事であった為、大幅な電気消費量となった。また、現場のガソリン消費量は、工事量が増え、遠方の現場であった為、消費量が増加した。やむを得ない状況ではあるが、目標達成に努めたい。</p> <p>●達成までかろうじての達成ではあったが、この結果を励みに次年度(2023年度)もCO2排出量削減の目標達成を維持継続して邁進して欲しい。</p>
②環境経営計画の実施状況	<p>○環境経営計画(兼)実施状況管理表で確認した、環境経営計画はほぼ実施され、遵守出来ていると確認できた。</p> <p>●次年度も環境目標を維持継続してCO2排出量削減に取り組んで欲しい。</p>
③環境関連法規等の遵守状況	<p>○環境環境連法規の取り纏め(兼)遵守評価表で確認した、当社に関連する建設業・廃棄物処理業において法規等の遵守状況を確認した。大気汚染におけるフロン回収・破壊の措置において、平成27年4月にフロン排出抑制法が施行され、該当する建設機械において遵守出来ている。</p> <p>●次年度も維持継続して遵守していきたい。</p>
④外部からの環境に関する苦情や要望等	<p>○環境情報記録表で確認した、当年度は苦情・クレーム等がなかった事は良い結果である。ボランティア活動等の活動が活発に出来て、目標達成した。また、今回のボランティア活動は地域住民の手助けになる事項が多かった為、質の良い活動が出来た。</p> <p>●次年度は、今年度の活動からもっと地域、地域住民に必要な活動をしていきたいと感じ、積極的に参加できる事を望み同時に、苦情・クレーム等が発生したら関係者で速やかに対応すること。</p>
⑤その他、全般について	特になし。
⑥環境経営方針	特に不具合が無かったので、次年度も現行の環境経営方針を継続する。
⑦実施体制	○現行体制で特に問題なし ●次年度も現行の実施体制(推進組織図)を継続する。